

# 淡路昆虫研究会20周年に思うこと

奥 谷 禎 一

淡路昆虫研究会も同好会発足から数えて今年成人式を迎えることになった。昭和41年に淡路在住の熱心な昆虫愛好者が集まり、同好会として発足したのが始まりと聞いている。20年という月日も早いもので、設立当初の高校生諸氏も今では中堅として、それぞれの分野で活躍していることは慶賀にたえない。地方の小さな会は、資金難又は原稿不足で短命になりやすいが、会員諸氏の御援助と、会誌編集にたゆまない努力を払われた堀田・登日両先生に深く敬意を表わすものである。

さて、この20年間を振り返ってみると、同好会の誕生した頃からぼつぼつ自然保護熱が高まり、昭和46年に環境庁が発足した。また、兵庫県自然保護協会も産声をあげた。このような世の中の動きに応じて、淡路島の植生調査が、神戸女学院大学矢野悟道教授を中心として、25名のチームによって行われ、その成果は兵庫県より「淡路島の植生調査と生態的土地利用計画報告書、(1972)」として出版された。本調査は、既に巷間に流れていた本四架橋にそなえたものであり、また県自然課の初仕事であった。このとき、昭和8年の川原忠雄氏の記録以降不明であった八木村馬廻のヒメハルゼミが、論鶴羽山の山頂に残存するアカガシースダジイ林に産することが、同好会の主要メンバーであった武田義明氏によって確認された。さらに、この調査がもとになって、県の「自然環境の保全と緑化の推進に関する条例」によって、次のような指定が行われている。

自然環境保全地域：南淡町沼島神社、東浦町白山神社、一宮町伊装諾神社、三原町成相寺、津名町長谷。郷土記念物：淡路町大和島、一宮町明神岬、五色町新五色浜海岸自然石。自然海浜保全地区：洲本市安乎及び厚浜、東浦町久留麻。

このうち、五色浜の自然石は昆虫とはほとんど関係はないと思われるが、残りの九地点は多少とも昆虫と関係がありそうであるが、全く調査も検討も加えられていない。終りの自然海浜といっても、さんざん人手によって荒されたが、やっと砂浜があるので保護しようといった状況で、保護する目的は人々の遊び場としての意味が強いで、特殊な海浜性昆虫が生息し得るとは考えられない。しかし、自然環境保全地域は一応虫屋にも見すごすことのできない地域かと思われる。このように、一方では自然環境の保全に力を入れながら、他方では松枯れを防ぐ目的で殺虫剤の航空散布を行い生態系の破壊を進めていったのが、この20年かと思省させられる。

この次は、淡路島は本四架橋の影響をもろに受け、道路工事や、開発の波に洗われることになるであろう。そのはしりは、本州四国連絡橋公団による自然環境の事前調査である。1部は愛媛大学が受け持ったので、公表された成果を見られた方も多いと思うが、各種の調査会社によって行われたものは、なかなか見ることもできず、またどこでどんな会社が、あるいは人々が関係しているかを知ることもさきも困難な状況である。このような事前調査で記録された昆虫類は「標本はどこに保存されているだろうか」、「同定は確かかしら」、「本当の生息種だろうか、など多くの疑問や問題点をかかえながら、消えてしまっている。淡路島のような狭い島でも、このような状報のすべてをつかむことは難しいであろうが、何とかして情報を入手し真疑を確かめることもこれからの研究会の宿題のように思える。

このような調査により発見されたもので、研究会の諸兄によって確認して頂きたい記録を紹介しておこう。

ヒメボタル：三原町成相寺附近（成相ダム拡張工事に係る事前調査、データを忘れたが標本を見ている）。淡路町茶間川水系（本四連絡橋公団の調査、58年8月3～5日、ヘイケボタルの誤りではないかと思う）。

本四連絡橋公団の58年11月の報告書には、淡路町より11目103科403種が報告されており同町松帆の溜池から記録されたアオヤンマ・ヨツボシトンボ、ナベブタムシ、オオトックリゴミムシ、カラゴミムシなどが注目される。

私も関西にずっと住んでいたから、多くの事前調査の資料を入手あるいは閲覧する機会にめぐまれ、淡路に関する情報を多く提供できたと残念に思っているが、県民会館にある県政資料室には、かなり揃っているのだから、時々調べに行かれることをおすすめする。  
(神戸大学名誉教授)

## オオシモフリスズメの採集例

筆者は下記のように、オオシモフリスズメ *Langila zenzeroides newai* を採集したので報告しておきたい。

1. 採集年月日 1984年4月10日  
採集場所 洲本市安乎町平安浦
2. 採集年月日 1986年4月9日  
採集場所 洲本市由良三丁目

(堀 田 久)

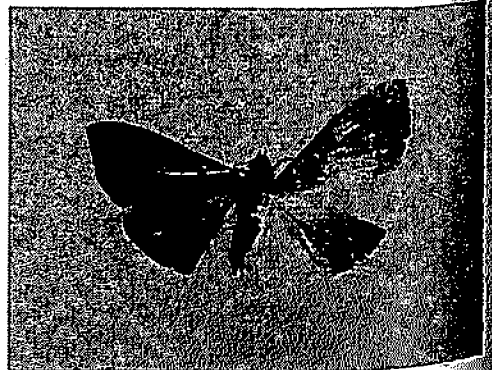
## ヒメチャバネトガリノメイガ ?

写真のようにヒメチャバネトガリノメイガ *Hyalobathra undulinea* Hampson らしき個体を採集したので報告する。

外観から見れば本種に該当すると思われる。しかし、分布の記録では、屋久島、奄美大島、沖縄本島で4月と10月に少数とあるので、或は異なるかも知れぬが、*Hyalobathra* の仲間である事には違いないと思う。

最後になったが、本稿発表に当り色々ご指導願った登日邦明氏に深謝する。

データ： 兵庫県三原郡南淡町阿万吹上町  
30. IV. 1986 (灯火採集)  
参考図鑑： 日本産蛾類大図鑑 (講談社)



(藤 平 明)